

令和5年度 特別支援学校寄贈物品 使用状況報告書 【1年目】

P T A名	静岡県立天竜特別支援学校 P T A	
学 校	対 象	<input type="checkbox"/> 視覚障害 <input type="checkbox"/> 聴覚障害 <input type="checkbox"/> 知的障害 <input type="checkbox"/> 肢体不自由 <input checked="" type="checkbox"/> 病弱
	設 置 部	<input type="checkbox"/> 幼稚部 <input checked="" type="checkbox"/> 小学部 <input checked="" type="checkbox"/> 中学部 <input checked="" type="checkbox"/> 高等部
	全校児童・生徒数	80人 (10/1現在)

1. 使用状況

寄贈物品名	電子黒板 (ディスプレイ型)
使用学年及び人数	全校児童生徒80人 (主に高等部が使用)
使用頻度	学習の単元に応じて使用
使用状況	<p>『生徒会活動』 ボランティア活動の日程や場所等を電子黒板に表示し共有した。 放送委員会では、生徒個々の意見を電子黒板に書き合い、それを見ながら話し合いを行った。</p> <p>『体育』 サッカーのルール説明の際、コートテンプレートを電子黒板に表示した。 選手やボールの動きを書き込みながら、生徒に説明した。 ダンスの発表の際、見本となる動画を電子黒板に表示しながら行った。</p> <p>『産業社会と人間』 委託作業では、委託製品の詳細や手順、日程を電子黒板に表示し説明した。 実習決起式では、式次第や生徒の実習先の画像を電子黒板に表示した。</p>
物品の使用による変化や効果	<ul style="list-style-type: none"> ・画像の提示やテンプレート画面の使用により、生徒にとって分かりやすい提示、説明ができたように感じる。また、タブレット端末やパソコンと組み合わせることで、教師の教材準備の負担軽減にもつながった。 ・場面緘黙の生徒にとっては、直接意見を書き込むことで全体との意見の共有をスムーズに行うことができた。 ・生徒個々の意見を電子黒板に書き合うことで、生徒たちが話し合いをスムーズに行うことができた。
今後の活用の見通しや課題	<p>タブレット端末を活用した授業実践の中で電子黒板を使用する頻度は増えてきている。今後は、デジタル教科書を活用して、双方向的な授業実践に発展させていきたい。</p>
その他希望や所感など	

2. 活用の様子



実習決起式の様子